

NPO 法人 環境生態工学研究所 活動報告

テーマ	志津川・アカモク採取、播種活動
実施日	平成 25 年 4 月 27 日 (土)
参加者	南三陸町生活研究グループ連絡協議会、宮城県漁協南三陸町支所、 E-TEC 会員 【約 15 人】

2013.4.27 志津川湾でアカモクの採取・播種活動を実施しました

アカモクはホンダワラ科の海藻の一種です。各種ミネラルを豊富に含むことから健康食品として注目を集めているものの、利用されているものはごくわずかであり、多くの漁師さんは『ジャマモク』として扱ってきました。ところが、海洋生態系における重要性が認識されはじめ、研究者の間ではホットな海藻の 1 つです。

今回の活動は『三井物産環境基金』の助成を受け、津波被害を受けた三陸海岸の藻場とそれを取り巻く方々の生活基盤を早期に回復させることを目的としています。



必要分のアカモクを確保するべく、最初に浅瀬でアカモクの採取を行いました。分別なく採取するのではなく、なるべく食べ頃のもの（おいしい頃合いがあるそうです!!）を探しながら行いました。活動を指導した当 NPO の佐々木アカモク博士によれば、アカモクも人も成熟しないとまみが出ないとか。参加した女性軍はなぜか大笑いしていました。

(次のページに続く)



アカモク採取後、より正確な選別作業を行うために接岸しました。



今回の活動に参加していただいた方々に選別作業を行ってもらっています。



食べごろのアカモクを選別し、ダンボールに詰めていきました。 (次のページに続く)



作業終了後、簡単な講義を交えつつ採取したアカモクの観察を行いました。また、南三陸町生活研究グループ連絡協議会からの差し入れで、アカモク入りコンニャクをご馳走になりました。ヌルヌル、シコシコしてアカモク効果抜群のとても美味しい舌触りでした。



集めたアカモクは、漁協の冷凍庫に一時保管しました。南三陸町生活研究グループ連絡協議会の皆様は、このアカモクを使って商品開発をなさるそうです。どんな商品が出来上がるのかとても楽しみです。また、その商品が有名になって、三陸復興に役立てば住民の方々にも海の環境にとってもとても良いことだと思います。

以上（文責・エコナビゲート(株)・井上）